

JAMの主張

参院選 再び安心社会の流れを 自公の暴走に歯止めかけ

機関紙 J A M 2013 年 2 月 25 日発行 第 168 号

予想どおりというべきか。政府の規制改革会議で雇用・労働に係る規制緩和の論議が活発化しつつある。

派遣法の見直し、解雇規制の柔軟化、裁量労働制の拡大、事務系労働者の新たな労働時間制度の創設等などである。民主党政権下で着実に実行された「働くことを軸とする安心社会」とディーセントワークの実現をめざした雇用・労働政策を逆戻りさせ、ホワイトカラーイグゼンプションなど過去に連合の運動で葬り去った政策が蒸し返されようとしている。また、株高、円安に沸くアベノミクスの陰で「国土強靱化計画」なるばらまき政治や、生活保護の切り下げなどの弱い者いじめ、「孫の教育資金1, 500万円以下の非課税化」といった富裕層優遇政策など古い自民党政治が復活しつつある。

総選挙の結果による政治情勢をみる限り、厳しい展開が予測されるが、労働運動の総力をあげて古い政治への逆流を食い止めていかねばならない。その大きな試金石が7月の参議院選挙である。万が一、総選挙と同様な結果となれば、重しのとれた自公政権は安全運転をかなぐりすて「何でもあり」の暴走をはじめ。暴走に歯止めをかけ、再び安心社会への流れを作り出していくために参院選は負けられない。

政権交代の期待に十分応えられずに総選挙で大敗した民主党であるが、「人々が共に支え合う共生社会」という目指すべき社会像や、働く者や生活者に視点をあてた政策を連合、JAMと共有できる政党は民主党の他にない。

加えて、比例代表選挙においては、ものづくりの未来がかかっている。「ととどろき利治議員」は「津田やたろう議員」とともにものづくりの現場を真に理解し、その維持と発展のために汗をかく数少ない議員である。

今次参院選が自公の古いそして危ない政治の流れに歯止めをかけ、一方でものづくりを守り、発展させていくための重要な取り組みであることを、組合員に力強く訴えていこう。